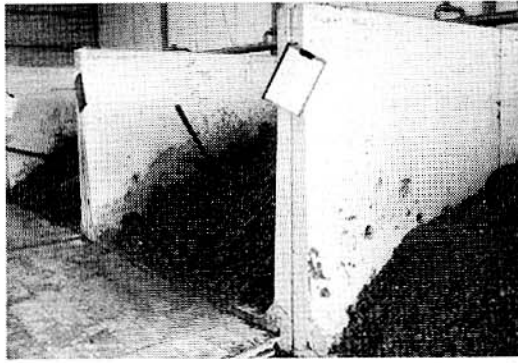


来期めどに飼料化へ参入

環境
テクシス コンサル業務も展開



発酵槽のようす

食品工場の余剰汚泥などを中心に、たい肥化を手がける環境テクシス（愛知県豊川市、高橋慶

社長、☎0533・87・5512）は、来年度を目標に破袋選別機と乾燥機を導入し、飼料化事業へ参入する。同社のノウハウを生かし、排出事業者への食品リサイクルコンサルタント業務も強化する

計画で、5年後に年商1億円を目指す。

施設の処理能力は1カ月当たり汚泥100立方

㍎、動植物性残さ10立方㍎。現在、食品工場の余剰汚泥をメインにたい肥化している。稼働率は20%程度。建屋内には、12立方㍎の発酵槽を8槽備える。搬入した汚泥は戻したい肥や消石灰と混合し、水分調整して発酵を立ち上げる。エアレーションしながら1週間に1度切り返しを行い、約2カ月かけて完成させる。臭気は

各槽から捕集し、微生物により脱臭する。

完成品は「ゆうぎのススメ」として普通肥料登録を受け、インターネットを通じて、または近隣農家などへ販売している。近隣への供給強化を視野に入れ、マニアスプレックスを導入し施肥サービスの開始を検討している。

現在は汚泥の処理が主体だが、今後、県内の食品工場へ営業を強化し、動植物性残さの受け入れを進める。製菓工場の製品ロスなど、カロリーの高い製品の受け入れを軌道に乗せ、飼料化事業へ参入したい考え。同社高橋社長は「少ない投資でいかに事業を進めるかが食品リサイクルのポイントと感ずる」とし、再生事業と並行して排出事業者への食品リサイクルコンサルティングも展開したいとした。